

オリーブの会通信

2012年2月7日

発行：特定非営利活動法人KHJ香川県オリーブの会
〒760-0078 高松市今里町一丁目 499-2
連絡先 TEL/FAX 087-843-9877 (川井)
<http://khj-olive.com/>



第116回月例会ご案内

日 時	2012年2月26日(日) 13:30~16:30 (受付:13:00~)
場 所	香川県社会福祉総合センター 6階 研修室 高松市番町1-10-35 Tel 087-835-3334
内 容	13:30~ 開会 13:30~13:45 : 会の方向性と運営について他(川井) 13:45~15:00 : テーマ <u>作業所作りを目指して</u> —ひきこもりの若者の働く場所作りを考える— きょうされん香川支部代表 泉 善 法 氏 質疑応答含む 休 憩 (15分) 15:15~16:30 : グループ別話し合い —ひきこもり対応で 今 一番困っていることなど—
参 加 費	・会員 1家族 500円 ・非会員 1家族 1,500円

立春も名ばかりで毎日寒い日が続いています。また、インフルエンザが猛威を奮っているようですが、会員の皆様にはご自愛のうえお元気でお過ごしされますようお願いいたします。

さて、2011年度も残り少なくなり、年度末に向けた対応が求められる頃となりました。大人のひきこもりと言われる若者が増えていくなか、さらなる若者支援について考えていかなければなりません。1月22日のひきこもり講演会では、金城先生から貴重なお話を聴くことが出来ました。そしてオリーブの会の存在意義を再認識させられました。

また、2月例会では、作業所運営に携わっている泉氏に 作業所作りを目指して一ひきこもりの若者の働く場所作りを考える— 働く場所作りにおいても1家族として考えるのではなく、会員みんなのこととして考え協力し合うことを基本に、資金面などについてお話していただく予定です。

これからも、皆様方の更なるご支援ご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

ひきこもり講演会&座談会より 1/22 (日)

講演

テーマ「親の焦り」— 長期間ひきこもる子と向き合うには—

講師：NPO 法人エルシティオ

理事長 金城 清 弘 氏

私は、20年間不登校の子どもへの指導・支援（サポーターとしての親になってしまっている）すると共に、今も付き合っている子もいる。

今日は、「ひきこもりの子どもたちのことをどう理解していくのか」「子ども達の気持ちについて」「相談から見えてくるもの（問題点）について」お話しします。

1 「子どもたちのことを どう理解していくのか」

○ 不登校やひきこもりになるのは、学校や社会へ出たら心が壊れて体がおかしくなるからです。自分を守るためにひきこもって休んでいるのです。

- ・ 応援するときは「休むことは大事だなあ」というメッセージをすることがまず大事です。学校へ行かそうとすることは、子どもの死にそうなくらいしんどいのを親は解ってくれない。（子どもを解ってあげないことから問題が生じている。親子の葛藤が始まるのです。）
- ・ 不登校になったときは「今までようがんばったなあ」「よう休めるようになったなあ」と褒める。そして、どこかで理解していかなければ子どもたちは立ちあがれない。「きっかけ」をつくっていく。
- ・ 子ども自身が小学校の段階からひきこもりの場合は、学校へは行っていないが自分で体の中で時間を刻んでいっている。何かに結びつけないと覚えられない。特に、知人や親戚の結婚あるいは子どもが生まれたことを聞くことは

「辛いこと」となる。

- 発達していく中での「経験」はどうすればいいか。
 - ・ 昔は「袖触れ合うも縁」の中で成長していたものや場があったが、今は浮遊している状態にある。
子どもはどこに立っていればいいのか、存在しているのかどうかを感じられない。帰属感や時間の流れる中での帰属がある。
- 社会や組織が怖い。人との接点が「怖いだけ」である。
 - ・ 多くの親は、「動く、動かない」で判断するが、「動く」とは人として生きることである。狭い範囲（本屋、散髪店、ガソリンスタンド）で動くのは「動く」とは言わない。「動く」とは、そこに「人がいる」ということ。人によって傷ついたものは、人によって癒されなければならないということです。人との接点のないところで働きたいと言うが、そんなところは何処にもない。
- 不登校の子どもの「しんどさ」をどう受け止めるのか。
 - ・ 不登校の子どもは、朝、目覚めたときから起きていいのだろうか、昼間は皆が働いているので起きていることが不安なので寝るしかない、夜は皆が活動をしていないので安心して起きていられるのです。
 - ・ 夜中にいつも携帯電話をしてくる女の子がいますが、これは自分の心に「しんどさ」を持っていることの現われです。また、熱を出したり、腹痛を起こしたりする男の子は、身体症状を現し、その後「心のしんどさ」（2次症状）に移って行きます。
- 症状として
 - ・ 布団から起き上がれない、ものを言わない、単語だけを言う、「出て行きます」と言ってから 20~30 分しないと玄関に来ない、出るたびに朝シャンするので出るのに 3~4 時間を要する、よく寝る、ひたすら寝るが、浅い眠り、摂食障害、過食になる、しんどさには年齢差は無い。
- 切り替えが必要
 - ・ 部屋のカーテンを開けて外の空気を入れることで生活の一つ一つが変わっていく、子どものしんどさを共有し、励ます材料とする、生活の一つ一つで受け止めて欲しい。
- アパート生活
 - ・ ゴミ箱の中のレシートで何時に起き、何をしていたのか、夜中に出るのか、夕方か、昼間かなど、その子の気持ちの落差を見ていく。
- 子どもの様子
 - ・ 光や音に敏感、目が痛む（視野が狭くなり、精神的に観るのが辛くなる）、低体温（手が冷たい）、低筋力（散歩をさせる）、無表情、風呂に入らない、頭を洗わない、散髪（母親がする）、年齢より若く見える、皺は接点だがひきこもりの子は少ない。
- 「しんどさを深く深く理解しよう」と思って接する

- ・ 何で会話が切れたのか、それは、答えを用意していたり、正解を出そうとすることが、「わかってくれないこと」になるためです。
- ・ 説得しようとする親に対し、子どもは「合意」を求めている。葛藤を親に話している。なるほどそう思っていたのだと理解する。
- ・ なぜ話が止まるのか、それは親が正解（こう在るべきだ、動かないからだ）を投げ続けているからです。
- 基本的には、本人の努力ではひきこもりから脱出することが出来ないので、第三者が入ることが必要です。
- ・ 支援法では、アウトリーチなど外へ出そうとしているが、第三者が入って話を聴いてやるのが人間回復になる。子どもは人に対する不信感を持っているので一人でもいいから、信頼の出来る第三者を立てることです。

2 子ども達の気持ちについて

- 子どもは親のことを心配（親思い）していることが多い。
 - ・ 母親が病気などの場合は心配行動や態度が出る。
- 親がアパートを買って子どもと別居していても、思いは子どもに伝わっている。
 - ・ 子どもは「申し訳ないつらさ（負い目、引け目、自責の念）」（自信がなくて親を乗り越えられないので、ものを言わない）を持っている。
- 母親にとって辛いことは、食事を食べてくれないこと。
 - ・ 子どもが自分で作り（ラーメンやレトルト）自分の部屋で食べる（1～2回）が、その後、自炊は減る。母親を困らせるため食器を部屋に溜める。また、好き嫌いがなくなってくると、元気になってくる。
- 食べ物は愛情です。
 - ・ 赤ちゃんの離乳時には、母親が咀嚼した物を食べさせるので赤ちゃんは安心して受け入れる。不登校、ひきこもりの子には偏食が多い。何を食べているのか変化を見ていくことです。
 - ・ 冷蔵庫には食品を少なくし、調理しなければ食べられない物を入れておき、母親の作ってくれた食事が一番おいしいと思わせることです。

3 相談の中で見えてくるもの（問題点）について

- 母親がしんどい
 - ・ 姑、実家の母から育て方が悪い、近所のおばさん、亭主の不理解
- 子どものことがよくわからない
 - ・ ものを言わない、物を壊す
- トラブルの前に読み取れるように
 - ・ 大工さん、ガラス屋さんに修理してもらう中で何かを読み取る
- 待つといいながら待っていない
 - ・ 子どもの緊張状態が何年も続いている、精神的には闘っている、一緒に食事が

出来ない

- 緊張状態が解けると赤ちゃん返りをする
 - ・ テレビなど話したいことが続く
- 精神科受診への誘い
 - ・ 「病院に行かない」というより、「治療に行かない」と言う、子どもが主体でお医者様は手伝ってくれるものと思う。
- 動けるとは人との接点が多くなること
 - ・ ボランティアの参加したとき、仕事の内容を聞かず「良く行けたわね」「行けたことが素晴らしい」という。



4 最後に

不登校、ひきこもりについて行政がやっと動き出した。障がいを持つというだけで人格の一部を否定され、生き辛さはあるが、自分たちの周りから変えていく必要がある。行政からの支援を受けられるよう努めて欲しい。

座 談 会

講演に引き続き行われた座談会では、金城先生と出席者が向き合い、終始熱心なお話が出来ました。その概要は次のとおりです。

Q 1 ひきこもりのきっかけは親にあったのか。

A 親がきっかけではない。社会情勢や社会現象（高度経済成長、いい大学、いい会社の考え）を受けて不登校、ひきこもりが増えてきた。社会が作ってきた問題（地域破壊、昔は地域で子どもが育てられたが、今は無く、母親は孤立して子育て）なので、社会が支援する必要がある。

Q 2 20年来、子どもと話していない、父母のため仕事一途に打ち込み定年まで働いた。子どものためとお店を開いたり、住まいを変えたりしているが、子どもはひきこもりから抜け出せていない。このような家庭をどのように感じられますか。

A 自分で無い自分を演じようとするのが緊張です。借りて来た父親像の演じ方が子どもに緊張をさせているように思う。自分を楽にして、こだわり（僕は君を愛している、大事な息子と言うメッセージ）や縛りをなくすることが大切です。

Q 3 「怖さ」と言うものはどういうようなものですか。

A 「人は私をどう思っているか」、「自分は人にどう見られているか」ということが「怖さ」です。

Q 4 幼児返りにどう対応すればよいか。

A 家の中での位置づけ、自分はこの居ていいのかの不安を持っている。確信を与えて欲しい。「認め」だと思う。
家の中の仕事（共同作業～料理の手伝い、部屋の模様替えなど）をさせて認めてやることです。

Q5 「焦り」に疲れた親の一人です。どのように対応すれば良いでしょうか。

A ある程度子どもを自由にさせ、親は離れて見守る、貴方のしんどさは子どもに重なるので「そうね」、「まあこれでいいか」で答えを見つけて下さい。

Q6 「原因度」は本人が持っていたのか。本人に会うように変えていくべきでしょうか。

A 自分の子どもがひきこもりになれば、ひきこもりの中で「血筋」まで考える子どもが出てきているのが納得出来ない。今の世の中、生き辛いのはひきこもりだけではない。健康な人も生き辛さを覚えている人が多い。
大震災は日本人から絆、思いやりの裏にある「怒り」を發揮させない状況にあるが、自分を出していける社会（当たり前前の暮らしの出来る世の中）にしなければと思っている。

以 上

【パソコン教室・ポパイの会 1/29（日）】

当日は支援員の森下さん、井上さんと大学院生のIさんが一緒に来られ、若者の参加は3名でした。途中から一人の若者が居場所まで来ることができました。とても頑張って勇気をだして来てくれました。次回は支援員の人達や若者とおしゃべりができるといいですね。PCで簡単な画像ギャラリーのページ作成を練習していたり、また絵を得意としている会員のMさんに、絵の細かい描写の筆使いなど熱心に質問している若者、リラックスした様子で座っている若者もいるような、あまり緊張しないで集える居場所です。
2月12日は13時からはじめます。1時間程度PCの練習後、カラオケの予定です。

【お遍路さんのお土産作りの状況】

◇たんぽぽの風企画さんのお土産作りのお手伝い

若者(女性)が折り紙の菅笠を熱心に作ってくれています。手順はお母さんが教えると、すぐ覚えたそうです。また絵手紙では若者が描いた龍と玉の絵が、志度寺にある「海女の墓」由来の千三百年前の伝説にピッタリということで大変喜ばれたとのこと。

また、お土産の製品名「杖のあと」の販売も3カ所で販売されているそうです。ボランティアになりますますが協力できればと思っています。(場所、曜日等は月例会にて連絡予定) 絵手紙については会員の皆さん及び若者の協力を引き続きお願いいたします。

【2月 居場所活動予定】

内 容	日	曜日	時 間	担 当
第2回（拡大）理事会	4	土	13：30～	川井
個人カウンセリング（松田 勝先生）	11	土	9：00～	川井
ポパイの会 パソコン教室 カラオケ（予定）	12	日	13：00～ *30分早く始めます	森下

次回【117回月例会の予定】

日 時	2012年3月25日（日）13：30～16：30（受付：13：00～）
場 所	香川県社会福祉総合センター 6階 研修室 高松市番町1-10-35 Tel 087-835-3334
内 容 （予定）	一部 運営委員会の報告・討議 二部 グループ別話し合い
参 加 費	○一家族 500円（会員） ○一家族 1500円（非会員）
担 当 G	Aグループ

【お知らせ】主催：全国社会的ひきこもり支援連絡会議

・現地実行委員会事務局（NPO 法人神戸オレンジの会）

日 時	2012年2月18・19日（日）13：30～16：00（開場13：00）
場 所	流通科学大学（催し） 神戸市西区学園西町3丁目1番
内 容	『第7回社会的ひきこもり支援者全国実践交流会 in 神戸』 18日（土） ○記念講演「新たな働き方を求めて～丹波の力」 交流館 しゃべり場 井上一休氏 ○特別シンポジウム「新たな学び方 働き方へ」 ○テーマ別実践交流会「就労と仕事起こし」「不登校からひきこもりにつながる支援のあり方」「ひきこもりと家族支援」「フリースペースと若者支援」 「こころの問題とひきこもり支援」 19日（日） ○ワーカー養成セミナー
参 加 費	○大人 3000円 ○学生・当事者・本人 2000円 ○懇親会 4000円

<http://hikikomorishien.web.fc2.com/>